

令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和6年度の振り返りと令和8年度の取組検討）

施策No	212
施策名	魅力ある観光資源の開発と整備
関係課	観光推進課、広報ブランド推進課、市民生活課、産業政策課、農政課、農山村振興課、文化推進課、スポーツ推進課、文化財課

1. 進行管理

(1) 指標の実績・考察と目標年度（令和7年度）の目標値達成見込み

指標	単位	実績値				見込値	目標値	最終年度（R7）の目標値達成見込	R6年度の実績説明・考察及びR7目標値達成見込判断の理由
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7	
a 開発・整備した観光資源数	箇所	2	0	2	7	4	3	3	②現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）
b 市有観光施設等改修箇所数	箇所	7	8	12	13	22	15	7	②現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）
c									
d									

(2) 構成する事業事業の昨年度（令和6年度）の取組結果 ※効果が上がった、下がったの判定は、事業効果を説明する指標のR5との比較となります。

①施策関連区分A（実施計画事業）

【効果が上がった事業】

No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	事業費（単位：千円）			効果説明		
				R4	R5	R6	R4	R5	R6
1 観光資源開発推進事業	市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	0	0	0	
2 林道作原沢入線展望台等整備事業	市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	0	1,760	0	

【効果が下がった事業】

No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	事業費（単位：千円）			効果説明		
				R4	R5	R6	R4	R5	R6

②施策関連区分B（実施計画事業以外）

【効果が上がった事業】

No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	事業費（単位：千円）			効果説明		
				R4	R5	R6	R4	R5	R6
4 あきやま学寮等管理事業	施設利用者数	人	1,178	1,142	0	13,277	12,008	0	市全体の観光入込客数は増加したものの、施設の老朽化等もあり、施設利用者数は減少した。
6 観光施設改修事業	市内観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402				
7 観光施設公衆トイレ等維持管理事業	市内観光客入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	8,587	11,666	0	観光地に訪れた人に不快感なくトイレ・駐車場・休憩施設・水汲み場等を利用してもらえたことから、入込客数の増に貢献できた。
8 観光物産会館指定管理事業	観光物産会館来館者数	人	246,802	282,775	304,881	8,020	2,857	1,589	来館者数及び売上額ともに増加となった。
16 みかも山観光物産会館解体事業	解体工事	件	0	0	1	0	0	9,676	県の指定するとおり解体工事を実施し、返還した。

【効果が下がった事業】

No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	事業費（単位：千円）			効果説明		
				R4	R5	R6	R4	R5	R6
13 根古屋森林公園改修事業	施設利用者数	人	1,578	1,868	1,615	0	0	2,295	施設利用者数は減少となった。
17 道の駅どまんなかたぬま指定管理事業	来場者数	千人	1,906	1,963	1,945	50	53	0	来場者及び売上額が減少した。

(3) 基本方針の取組状況

①特に実績をあげている取組（計画初年度（令和4年度）以降の取組状況）

②未着手等計画通りではない取組（及び今後の対応）

・近隣自治体と連携して観光資源の発掘や観光ルートの開発等を行い、観光回廊づくりを推進する。（佐野市・みどり市観光推進協議会を設立した。）	・魅力ある体験メニューの企画及び情報発信を図り、体験型宿泊施設の利用を推進する。（各施設毎の特徴やターゲット、運営体制等を考慮した体験メニューについて、指定管理者と協議しながら推進していく。）
--	--

(4) 令和6年度行政経営方針の取組状況

①令和6年度行政経営方針

②令和6年度行政経営方針の取組状況

・みどり市と相互のイベント参加等により連携を継続するほか、林道作原沢入線を活用した観光振興を図るために展望台設置に向けた具体的な設計を実施する。また、林道を利用した広域での観光ルートを検討する。	・みどり市と相互のイベントに参加し連携をした。林道作原沢入線を活用した観光振興を図るために展望台設置に向け、事務を進めているが、具体的な設計は地権者の同意が得られておらず実施できない。林道を利用した広域での観光ルートの検討に向けて、「佐野市・みどり市観光推進協議会」を設立した。
・指定管理者と連携し、観光客が観光施設を安心して安全に利用できるよう「新しい生活様式」に沿った受入環境の整備に努め、利用率向上に取り組む。	・コロナウイルス感染症が5類へ移行したが、指定管理者と連携し、観光客が観光施設を安心して安全に利用できるよう受入環境の整備に努め、利用率向上に取り組んだ。また、今後の観光施設のあり方について、民間活力の活用も含めた検討を行い、あきやま学寮等については民間提案制度を活用することとした。
・また、今後の観光施設のあり方について、民間活力の活用も含めて検討を行う。	・地域DMOや近隣自治体等と連携し、観光の回廊化を図ることでできる新たな観光資源及び観光ルートを調査・検討する。
・地域DMOと連携し、観光地への2次交通としての電動自転車の利活用について検討する。	・地域DMOと連携し、観光地への2次交通としての市内5箇所でレンタサイクル（電動自転車含む）事業を実施している。
・学生等との連携により、新たな名産品や特産品等を開発・商品化し、観光資源としてSNS等を活用した周知を行うことで、観光誘客を図る。	・文教大学や松桜高校の学生と連携し、梨のジュレやクリケット大会向けのハラール弁当を開発・商品化し、観光資源としてSNS等を活用した周知を行った。
・市有施設の利用者ニーズを把握し、体験メニューの充実を図り、効果的なPRを行うことで、利用者とリピーターの増加につなげる。また、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）などのデジタル技術を活用した観光PRを行う。	・市有施設の利用者ニーズを把握し、体験メニューの充実を図ることができなかった。また、VR・ARなどのデジタル技術を活用した観光PRについても実施できなかった。
・インバウンド誘客を図るため、効果的な場所に国際化対応看板を設置する。	・インバウンド誘客を図るため、国際化対応看板を3箇所に設置した。

2. 課題と次年度（令和8年度）の取組

(1) 課題<環境変化や関係者の意見、要望等を踏まえて>

(2) 課題に対する今年度（令和7年度）内の取組状況、予定

(3) 次年度（令和8年度）の取組（案）

①近隣市町との連携による新たな観光資源の開発及び観光ルートの開発	①観光協会や近隣市町と連携し、広域観光を推進するための新たな観光ルート等の検討を行う。
②特産品・名産品等の観光資源化	②地域DMOを中心とし、企業や学生等と連携して新たな特産品や名産品等の開発を行い、観光誘客を図る。
③安全で安心して快適	